

社会－1 1（第6学年） 互いの予想について資料を活用して吟味する事例
【学習活動の概要】

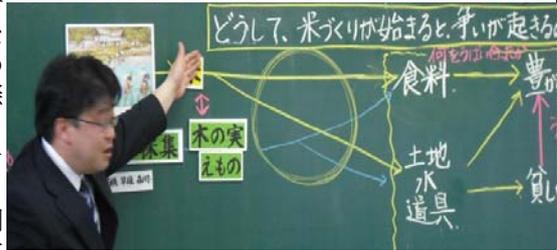
<p>1 単元名 縄文のムラから古墳のクニへ</p>				
<p>2 単元の目標 狩猟・採集や農耕の生活，古墳，国の形成に関する考え方に興味をもち，豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと，各地に支配者が出現し，やがて大和朝廷による国土の統一されていったことが分かるようにする。</p>				
<p>3 評価規準 【社会的事象への関心・意欲・態度】 狩猟・採集や農耕の生活，古墳，国の形成に関する考え方に興味をもち，意欲的に調べている。 【社会的な思考・判断・表現】 農耕の始まりと人々の生活や社会の変化との関連や前方後円墳の広がりや大和朝廷の国土統一を関連を考え適切に表現している。 【観察・資料活用の技能】 遺跡や出土品，復元画，神話や伝承などの各種資料を活用して，狩猟・採集や農耕の生活と古墳についての情報を読み取って調べたことを年表や作品にまとめている。 【社会的事象についての知識・理解】 農耕の始まりが人々の生活や社会に変化をもたらし，「むら」が次第に「くに」へと発展し，やがて大和朝廷により国土が統一されたことが分かる。</p>				
<p>4 教材 「米」をただ食べ物の一つとして認識していたのでは，弥生時代における農耕生活を縄文時代の生活と異なるものとしてとらえることは難しい。単なる食べ物の奪い合いならば，縄文時代に狩りや漁で捕らえた「獲物」を奪い合っても争いが起きても不思議ではない。ムラ同士が争うのは，弥生人にとって米が命に関わる価値の高いものだからである。こういった弥生人のもつ米の価値から争いの原因を考えさせたい。そのために，①「米づくりと争いを結ぶ関係図」と②「袈裟襷文銅鐸（伝讃岐国出土）の絵を予想するシミュレーション」を教材として用いた。①は，予想を吟味する際に，縄文時代との違いに目を付けさせるために用いた。②は，銅鐸に「倉庫」の絵が描かれていることから，米の保存性に気付かせるために用いた。</p>				
<p>5 主な学習活動 (1) 単元の指導計画（全8時間）</p> <table border="1" data-bbox="236 1267 1396 1637"> <thead> <tr> <th data-bbox="236 1267 884 1328">学習活動</th> <th data-bbox="884 1267 1396 1328">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="236 1328 884 1637"> <ul style="list-style-type: none"> ○三内丸山遺跡と縄文のムラを調べる（1） ○吉野ヶ里遺跡と弥生のムラを調べる（1） ○米づくりと争いの様子を調べる（1） 本時 ○縄文と弥生のくらしの様子を比べる（1） ○ムラからクニへの変化を調べる（1） ○巨大古墳の様子を調べる（1） ○大和朝廷と国土統一の様子をまとめる（1） ・神話・伝承について調べる ○振り返って学習をまとめる（1） </td> <td data-bbox="884 1328 1396 1637"> <ul style="list-style-type: none"> ・「種籾や土地，道具，水を奪い合ったから」という予想の妥当性を学級全体で吟味するようにする。 ・レプリカなどの資料を使って調べたり体験したりしたことを振り返り言語でまとめるようにする。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本時の学習（3／8）</p> <p>①目標 米づくりが始まると争いが起きる理由を予想し，縄文時代と比較したり，銅鐸の絵を選択したりすることを通して弥生人にとって米は安全で安定した命をかけるほど価値の高い食べ物だったことを説明することができる。</p> <p>②展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○吉野ヶ里遺跡の様子から学習問題を作る。 ○争いの原因を予想し，話し合う。 ○関係図をノートに書き，話し合う ○銅鐸に描く絵を選択する活動を行い，弥生人の価値感を想像する。 ○弥生人になったつもりで，銅鐸の絵をノートに描き写す。 	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○三内丸山遺跡と縄文のムラを調べる（1） ○吉野ヶ里遺跡と弥生のムラを調べる（1） ○米づくりと争いの様子を調べる（1） 本時 ○縄文と弥生のくらしの様子を比べる（1） ○ムラからクニへの変化を調べる（1） ○巨大古墳の様子を調べる（1） ○大和朝廷と国土統一の様子をまとめる（1） ・神話・伝承について調べる ○振り返って学習をまとめる（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「種籾や土地，道具，水を奪い合ったから」という予想の妥当性を学級全体で吟味するようにする。 ・レプリカなどの資料を使って調べたり体験したりしたことを振り返り言語でまとめるようにする。
学習活動	言語活動に関する指導上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ○三内丸山遺跡と縄文のムラを調べる（1） ○吉野ヶ里遺跡と弥生のムラを調べる（1） ○米づくりと争いの様子を調べる（1） 本時 ○縄文と弥生のくらしの様子を比べる（1） ○ムラからクニへの変化を調べる（1） ○巨大古墳の様子を調べる（1） ○大和朝廷と国土統一の様子をまとめる（1） ・神話・伝承について調べる ○振り返って学習をまとめる（1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「種籾や土地，道具，水を奪い合ったから」という予想の妥当性を学級全体で吟味するようにする。 ・レプリカなどの資料を使って調べたり体験したりしたことを振り返り言語でまとめるようにする。 			

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第6学年の内容(1)では、「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする」、「ア 狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子が分かること。その際、神話・伝承を調べ、国の形成関する考え方に関心をもつこと」と示されている。また、各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項として「社会的事象を多面的、総合的にとらえ公正に判断することができるようにする」ことが示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや社会的事象の意味について広い視野から考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明することができるようにする」ことが示されている。

本事例では、歴史学習において言語活動を充実させることで思考力等を育てようと考えた。そこで、「なぜ、米づくりが始まるとムラ同士の争いが起きるのか」という問題を設定した。この問題を解決する際には「米づくり」と「争い」の2つの事象を原因と結果を関係付ける思考力が働く。そこで、「事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深める」言語活動を充実させることを試みた。具体的には関係図をノートに書き、わかっている事実等の関係性から予想をする活動である。



【食料や道具ならば、縄文時代にもあったのに…】

また、学習指導要領の内容(1)アを踏まえ次のことを考えた。一つは、ただ農耕が始まったという認識ではなく、弥生人の生活が農耕中心になったと具体的なイメージをもたせること。二つ目は、縄文時代との比較で生活をとらえることである。そのためには、従来の「米づくりが始まり、米や種粃、土地や道具、水を奪い合ったから争いが起きた」という認識に留まらず、「米には、『一粒からたくさんできる』『長期保存が可能』『循環再生産が可能』という特徴があり、安全で安定した食料で、縄文時代の獲物よりも、より命や生活に関わっている。そのため「命をかけて米を奪い合って争った」と考えさせることが重要だと考えた。

【言語活動の充実の工夫】 —資料を活用してお互いの予想を吟味する—

本時では、以下のように言語活動の充実とその方策を考えた。

- お互いの予想を吟味する言語活動 → (方策) 板書の構造化と切り返し発問
- 資料から読み取ったことをもとに話し合う活動
→ (方策) 袈裟禪文銅鐸の絵を調べ「倉庫」が描かれている意味を話し合わせた。

まず、黒板の両端に「米づくり」カードと「争い」カードを貼り、その間を矢印でつなぐことにより、「この間の関係を考えるのだ」と思考対象を明確にした。そして、予想を関係図につなげていった。児童は、「土地や水、道具などを奪い合ったから」と予想した。そこで、米の代わりに「木の實」「えもの」カードを置き、「君たちの言う通り食料などを奪い合うのが理由なら、長い長い縄文時代に争いが起きていても不思議ではないのでは？」と発問し、じっくり間をおき考えさせた。縄文時代1万年の長さを10mのひもで表し、弥生時代と比べさらに「こんなに長かったのに、争いの跡は見つからないんだよ」と助言した。だんだんと、縄文時代の獲物と米の違い、すなわち米の価値を語り始めた。「米は安全に収穫できる」「たくさん収穫できる」「いつ食べられるか分からない時代だったから、米は命を長くする大切な食料」「命にかかわる米だったからこそ命をかけて争ったんだ」と多角的な観点から思考しつつ予想した。

次に「本当に弥生時代の人々はみんなが予想したように、米に価値を置いていたのかな？」と問いかけ、銅鐸の意味について補説した。そして、香川県から出土された袈裟禪文銅鐸のレプリカとそこに描かれている絵の資料を配布し、何が描かれていると思うか尋ねた。児童は、「倉庫」が描かれていることに驚きをもち、その意味を考え始めた。これまで考えてきた「米は長期保存できるからこそ争いが起きた」という争いの理由と「弥生人は、銅鐸に倉庫の絵を描くくらい米が長期に保存できることに値打ちを置いていた」ということが児童の中でつながりだした。実際に銅鐸(資料)を調べて読みとる活動を通して、実感を伴った理解に至った。



【銅鐸の絵を予想する活動】